1面からの続き

「ないものねだり」から「あるもの探し」

知事は、コンベンション施設の効果として「経済波及効果」を強調します。しかし、そのための手段は無限にあります。例えば、現計画が上手くいった場合の経済波及効果は202億円と試算しています。一方、熊本県のゆるキャラ「くまモン」の経済波及効果は日銀熊本支店の試算で1244億円です。

後藤は、今年グランプリ1位となった「ぐんまちゃん」を活用して商品開発や観光誘客に繋げることにより、お金をかけずに経済波及効果さらには企業のビジネスチャンスを拡大させることは十分可能であることを提言しました。

現計画の発想は、「他県にあるのに群馬には無い＝だから大きいイベントが誘致できない」という、高度成長時代の「ないものねだり」の発想です。

コンベンション施設のように「あった方が良いもの」は無限にあります。しかし、今や財政難の時代。なるべく「お金」をかけずに今持っている資源をフルに活かすために「知恵」を絞る「あるものさがし」の発想に転換すべきです。後藤は、高崎をはじめ本県にある既存の施設や街そのものをフルに活用した群馬らしいコンベンション誘致のあり方を対案として提示しました。

ゆるキャラで 1244億円の経済効果！
「くまモン」の取り組み秘話を聞く。

高崎の街なかの資源をフル活用した
夢のあるコンベンションを提言。

産経土木常任委員会
コンパクトなまちづくりに向け強い決意
（都市計画区域マスタープラン）

無秩序な市街地のスプロール化のツケが重くのしかかる

群馬県は、土地利用規制の緩い郊外地域へ大規模店舗や分譲住宅などが無秩序に進出し、人口密度の低い市街地が広範囲に形成されてしまったことから、①高齢者など交通弱者が住みにくい、②道路・下水道等のインフラ整備・維持に多額の予算を要する、などの問題が全国的にも際立って深刻となっています。

後藤は、2011年9月の本会議で富山県の取り組みを参考に、群馬でも公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりは可能であると提言。その後、県は2012年9月に、県として初めてコンパクトシティの考えを打ち出した「ぐんま〝まちづくり〟ビジョン」を策定したところです。

人口増加時代のまちづくりから転換を強く打ち出す

現在、県は市町村の都市計画の方向性を定める「都市計画区域マスタープラン」を県議会での議論を重ねながら策定中です。本プランも、「人口減少でも持続可能なまちづくり」を掲げ、①市街地が広がらないよう、郊外での住宅地・大型商業施設の抑制、②公共交通網整備へ移動手段をシフト、等の方針を強く打ち出したものとなっています。

後藤は、プランの方針を着実に進めるよう、実効ある土地利用誘導・規制を盛り込むよう指摘しました。

群馬と並ぶマイカー王国の富山県における
公共交通を軸としたコンパクトシティの取り組み
を調査（写真は次世代型路面電車「セントラム」。

地域活動ミニ報告（八幡地区）

地元市議と協力し、八幡小グランドに新たな
土を入れ整備を行う。。

飛び出し事故が起きた下大島交差点に注意喚起の標識を
設置。また、歩行者用信号の新設要望書を10月に
下大島・町屋地区と共同で高崎警察署長あてに提出。

下大島・町屋地区の懸案である夏季の増水に備え、
烏川・里見川の堆積土を除去。